



2024ジェンダー平等ミーティング

ジェンダー平等ミーティング

令和6年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

2024年8月22日(木) テーマ
「学校とジェンダー」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS





8/22

学校で感じる“ジェンダーにまつわるモヤモヤ(の正体)”について、

それぞれの経験をもとに、県内の現役教職員のみなさんとともに考えました。

テーマ

学校と
ジェンダー



「モヤモヤを感じた時をチャンスと捉えて、児童・生徒と教師と一緒に学んでいけるのではないか」深い話し合いができました。

「学校とジェンダー」

講師：富川 拓 さん（聖泉大学准教授）ほか

- ジェンダーについて話し合うというと、ぶつかり合うといったイメージもあるかもしれないが、前に向かって進んでいけるものになれば
- “男性が子育てをすることの壁”を実感した時、ジェンダーが“自分事”になった
- ポイントは「自分らしく生きられているか」「性は多様であるということがこの社会は実現できているか」
- 「当たり前」や「ふつう」の見直しを（ジェンダー主流化）

- 「ジェンダーの話は、いずれかの立場に寄った議論になりがち・・・だからついシャットダウンしてしまう」という意見も耳にするが、たとえぶつかり合いながらも話を続けることはやはり大切では
- 男性の先生だけの話し合いで物事が決まってしまうことがある一方で、更衣室が無いなど男子がないがしろにされている部分もある（部活動）
- 「女性は守られるもの」といった空気を今も感じることも（いろいろな意味で）
- セクシュアリティでモヤモヤを抱えている生徒への対応について、どのようにみんなに伝えていけるか・・・
- 自分自身、男子生徒に対して「そこで泣くか？」などと思ってしまうことも
- 心の中の動きは自由であるものの、そこ（自身の考え方のクセ）への気づきは忘れてはならない

- ・特別扱いも差別となりうる場合があるのではないか
- ・更衣室の問題をはじめとした“物理的な難しさ”をどう考えるか
- ・男女で道具が分かれているわけではない弓道などは、試合も男女一緒にできるのかも
- ・男女をあまり意識することなく参加できたのはよかった（吹奏楽）
- ・部活で「カッコいい」と言われて嬉しい時もあったが、今はかわいくしたい気持ち（気持ちは変わる）
- ・先生の仕事もいろいろ大変だが、教えたり、生徒とともに学んだりするのは楽しそう。自分としては、趣味の時間も大事にできる働き方を選択したい

- ワークライフバランスは大事だが、「仕事一筋」でいきたいならそれもひとつの選択、生き方
- スポーツや部活動、どうしたらみんなで楽しめるか・・・困った時などを“よい機会”と捉えて「ジェンダー平等」についてみんなで話し合っていければ（安心して議論できる場があることが大事）
- 女子がスラックスをはくことなどに関しても、こちらが心配していたよりもみんな受け入れていた（受け入れる素地ができていた）
- 一方で、軽はずみな発言をしてしまう大人がいる。一人ひとり、いかに“気づき”を大事にして生きているか・・・
- 「ジェンダー平等」を大事にして、いかに“自分を保てる”か（ジェンダー平等について考えることは、“自分を保つ”ことにつながるのかも）
- 生物学上の男女差などのいかんともしがたさはあっても、考え方をアップデートしていきたい。チャレンジしていきたい